

平成28年度

# 名古屋大学大学院国際開発研究科公開講座募集要項

主催：名古屋大学大学院国際開発研究科 共催：日本フランス語学会

## 話し言葉コーパスの構築と分析

イタリア、フランス、日本から、話し言葉研究の世界的第一人者を迎えて、音声言語を収集し、コーパスを構築し、言語学的に処理する方法を説明します。また、話し言葉コーパスを分析した具体的な事例を紹介します。対象言語は主にロマンス諸語(フランス語、イタリア語など)と日本語ですが、他の言語にも応用可能な幅広い観点から議論を行います。講義は日本語の通訳付きで、英語で行われます。

### ●プログラム：—————

#### 1. 日本語話し言葉コーパスの構築と分析：回顧と展望 (10:30-12:00)

丸山岳彦 (専修大学)

ここ10年余りで、日本語の自然な話し言葉を大量に集めた「自発音声コーパス」が徐々に整備されてきた。これにより、従来は等閑視されてきた(あるいは研究のしようがなかった)フィラー、言い直し、発音の変異など、話し言葉に特徴的な現象を、定量的に分析できる環境が整ってきたと言える。本講義では、自然な話し言葉を音声コーパスとして整備する際の問題点、実際の分析事例、自発音声コーパスの将来的な展望などについて述べる。 [英文要旨](#)

#### 2. 段階的韻律構造とマクロ統語構造：話し言葉分析のための概念 (13:00-14:30)

Philippe Martin (パリ第7大学・LLE, UFRL)

話し言葉にマクロ統語分析を適用するとき、話し言葉テキストは、韻律分析とは独立して、マクロセグメントの単位に分割できる。マクロセグメントとは、その前後に存在する単語列から統語的に独立した単語列のことをいう。それだけで自立的な完成文となるマクロセグメントを「核」といい、「核」の前と後に位置するマクロセグメントを「前核」と「後核」という。一方、発話のイントネーションは「韻律核」と「韻律後核」すなわち韻律構造によって組織されたアクセントグループに分割することができる。「韻律前核」は存在しない。「韻律核」は完全に自立的な韻律連続のことである。ここで、韻律構造と統語構造間の共起関係が必然的に問題となり、次の3つのタイプの同期が検討対象となる。a) 韻律境界と統語境界が一致する場合、b) 韻律境界がどの統語境界とも一致しない場合、c) 統語境界がどの韻律境界とも一致しない場合。これらの3つのタイプを多数の例を挙げて提示し、(自発的な)話し言葉の理解には韻律が重要であることを説明する。 [英文要旨](#)

**3. ロマンズ諸語話し言葉コーパス (C-ORAL-ROM) : 話し言葉の収集と転記, 韻律の手がかりによる発話ごとのテキスト・音声の同期 —オースティンによる語用論の伝統に基づいて— (14:45-16:15)**

**Emanuela Cresti & Massimo Moneglia (フィレンツェ大学・LABLITA)**

話し言葉コーパスは言語研究にとって重要であるが, 十分に活用するためには, コーパスの収集方法及びアノテーションの方法を吟味せねばならない. 本講義ではC-ORAL-ROM (Cresti & Moneglia 2005) の構築の経験に基づいて, アノテーションのための種々の基準を提供する. その際, 最も重要なのは韻律であり, 我々のアプローチではこれが最も重要なアノテーションの層となる. 終結部に認知可能な韻律的中断を見つけることによって, 文法的分析を離れて, 話の流れを単位(すなわち発話 (Austin 1962)) に分割することが可能になる. 講義では以下の内容に沿って作業の原則と手段を説明する. a) 話し言葉の文脈の種類とコーパス設計, b) 録音方法と個人情報処理, c) メタデータの基準, d) 断片化現象, e) 韻律の中断・定義と運用基準, f) 発話行為と韻律の相関及びテキストとシグナルの同期.

[英文要旨](#)

**4. 自然発話の語用論的基礎と情報構造 (16:30-18:00)**

**Emanuela Cresti & Massimo Moneglia (フィレンツェ大学・LABLITA)**

Language into Act Theory (L-AcT, Cresti 2000)において, 話し言葉と情報構造の基準単位は発話であり, 発話は語用論的に基礎づけられる. 発話は話の流れの中で韻律によってマークされ, 一つの言語行為 (Austin 1962) に対応する. 情報パターンの中核を成すのはコメントであるが, それは発語内行為の表れであり, 新情報を伝達する. コメントは, 別の機能を果たす付加的な情報単位と共に現れてそれに支えられる場合もある. 情報パターンは, 意味と形の同型性の原則に従い, 韻律パターンによってマークされる. 本講義では英語とロマンス語の語用論と情報構造の分析例 (C-ORAL-ROM, C-ORAL-BRAZIL, S. Barbara Corpus) を提示する. [また中国語の会話データも扱う. 英文要旨](#)

**開催日程** 9月24日(土)10:30~18:00(昼食, 休憩含む)

原則として, 終日参加できることを受講の条件とさせていただきます.

**受講対象者** 大学生・大学院生・研究者・教員など.

**開催会場** 名古屋大学大学院国際開発研究科棟・8階・第1会議室

**募集人数** 30名

**受講料** 無料

**募集期間** 8月1日(月)から9月16日(金) (申し込み多数の場合は, 先着順とします.)

**申込方法** 電子メールにて受け付けます.

## 申込方法

- メールの件名に、「公開講座受講申込書」と記入して下さい。
- メールに「[受講申込書](#)」を添付して、本文には「受講申込書」と同じ内容事項を記入の上、以下のメールアドレスにお送り下さい。  
名古屋大学文系総務課(国際開発研究科)  
kai-sou@adm.nagoya-u.ac.jp
- 「申し込みを受信しました」旨の返信メールを、休日を除いた概ね 2 日以内にお送りしますので、ご確認下さい。

本講座 WWW ページ：

<http://www2.gs.id.nagoya-u.ac.jp/blog/dicom/?event=924%E5%85%AC%E9%96%8B%E8%AC%9B%E5%BA%A7>

申込と問合せ：名古屋大学文系総務課(国際開発研究科)

所在地：〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-5(700)

Mail アドレス：kai-sou@adm.nagoya-u.ac.jp

電話番号：TEL: 052-789-4952・4953

個人情報：「受講申込書」に記載される個人情報は、当研究科が開講する公開講座のために必要な業務を行うために利用いたします。それ以外の目的のために、利用または提供することはありません。また、これら保有個人情報の管理や利用は「名古屋大学個人情報保護規程」に基づき適正に取り扱います。

## 会場案内図

